

◆優 良 賞◆

嫌いな理由と好きな理由

浜 岳 中 学 校 三 年

佐 藤 瑞 莉

私は勉強が嫌いだ。学校の先生や私の両親は、勉強をすれば将来の役に立つし、自分の可能性を広げられるのだといつも言つてくる。しかし、私はその言葉をどうしても素直に受け入れることができないでいる。スポーツをしたり、音楽を聴いたりすることは大好きなのに。なぜ私は勉強が嫌いなのだろうか。その理由を考えてみることにした。

私が考える第一の理由は、「やらされている」と感じるからである。例えば、私の大好きなピアノは、自分から楽しく練習に取り組むことができる。しかし、勉強は、テストの点数や、課題の提出など、外から与えられた基準で評価されることが多い。だから、自分の意思ではなく「やらされている」という気持ちになり、楽しさよりも義務感が先に立つてしまうのだと考へる。

第二の理由は、「役に立つ実感を持ちにくい」と考へているからである。例えば、歴史の年号を覚えたり、数学の複雑な公式を解いたりすることは、自分の将来にどのように役立つか分からない。大人になればその重要さを理解できるかもしれないが、今の私にとっては、「なぜそれを覚える必要があるのか」という疑問が先に浮かんでしまい、勉強することを無意味に感じてしまう。

このように理由を考へてみると、私が自ら勉強を嫌いにしているのだと

思った。私の大好きなピアノは、勉強のように、「なぜするのか」ということは考へたことがない。ただ、「楽しいから」やつているのだ。勉強も、本来は、新しいことを知ることができる、とても楽しいものであると考える。しかし、学校教育や周囲の期待の中で「嫌い」という感情が生まれてしまつてゐるのだろう。

私のように勉強が嫌いと思っている人は少なくないと思う。しかし、高校生、大学生、社会人になつても勉強は続いていく。だからこそ、私は「勉強が嫌い」と言い切るのではなく、「どうすれば勉強を楽しめるか」を考えるようにしたい。このように考へるだけでも、勉強に対する気持ちも変わるものかもしれない。

私はまだ、勉強をしようとするとき、手が止まってしまうことがあるけれど、その理由を考へ、自分なりに工夫して取り組もうと思う。勉強を樂しいと思えるように、今日も考へ、手を動かしていく。